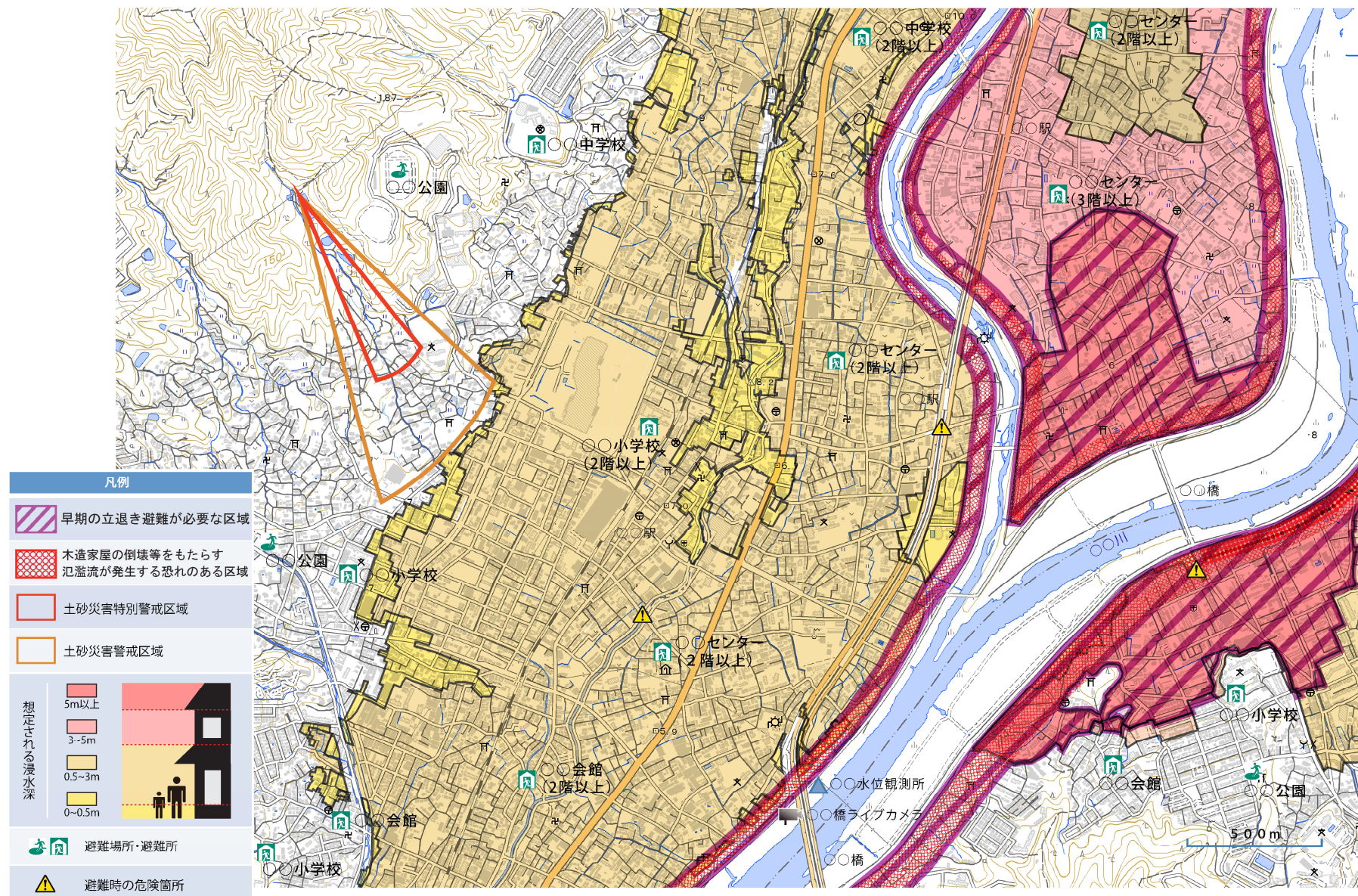


<〇〇地区>
〇川が氾濫した場合



この区域は、堤防が決壊した際に家屋を倒壊させるような激しい流れが発生する、または浸水深が〇m以上になる恐れがある区域です。
災害時は、避難勧告などに従って当該区域から安全な場所に速やかに・確実に立退いてください。



水害時における適切な避難行動や避難のタイミングは、個々人がおかれた状態によりそれぞれ異なります。
緊急時には、市町村や関係機関からの情報や周囲の状況等を確認し、自らの判断で適切に避難してください。

※この浸水想定区域は、イメージであり、実在のものとは異なります。

水害ハザードマップ

この地図は、下水道や河川の排水能力を大きく超える激しい雨が降った場合に、浸水が発生する地域を示した地図です。地図には、浸水が予想される地域とその深さ、避難場所等を示しています。平成〇〇年〇月、〇〇地方は記録的な豪雨【〇〇豪雨】に見舞われ、堤防が決壊したり広範囲に渡って浸水したりするなど甚大な被害を受けました。

この地図は想定し得る最大規模の降雨が降った場合に、浸水が発生する地域とその深さがどの程度になるかシミュレーションした結果を表しています。

なお、想定し得る最大規模の降雨は、近隣の地域で観測された大雨は、同じ地域ではどこでも同じように降る可能性があるとの考え方にに基づき、日本を降雨特性が似ている15の地域に分け、それぞれの地域において観測された最大の降雨量として設定されています。

浸水が想定される区域における避難行動

凡 例		避難行動
 早期の立退き避難が必要な区域		木造家屋が倒壊するような堤防決壊等に伴う氾濫流が発生する恐れがあることから、早期の立退き避難が必要
		家屋が倒壊するような河岸侵食の発生する恐れがあることから、早期の立退き避難が必要
		最上階も浸水するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要
		床上浸水または床下浸水が想定されることから、立退き避難が望ましいが浸水時に想定される状況を踏まえ、自らの判断により屋内安全確保でも良い
		浸水想定区域外の住民等が避難する場合は、避難の手助けを行う

✓ 避難行動や避難のタイミングは、個々人がおかれた状況によりそれぞれ異なることに注意してください

家屋倒壊等氾濫想定区域について

「家屋倒壊等氾濫想定区域」は、堤防沿いの地域等において、洪水時に家屋が倒壊するような激しい氾濫流等が発生するおそれが高い区域です。この区域では、洪水時には避難勧告等に従って安全な場所に確実に立退く必要があります。したがって、水害ハザードマップに記載した「早期の立退き避難が必要な区域」は、この区域も考慮して設定されています。「家屋倒壊等氾濫想定区域」は、一定の仮定を与えて算定していることから、その区域の境界は厳密ではなく、あくまで目安であることに留意してください。具体的な区域の算定にあたっての仮定は、以下のとおりです。

- ・想定している洪水は、その川で生じる最大規模の洪水であり、その洪水により堤防が決壊して氾濫が発生することとしています。
 - ・堤防はどの地点で決壊するか分からないことから、各地点で決壊した場合の計算結果を包絡した区域としています。
 - ・倒壊等する家屋は直接基礎の標準的な木造家屋を想定しています。
 - ・堤防決壊に伴う激しい流れによる家屋の流失、深い浸水に伴う土壌液状化による家屋の流失、河岸侵食に伴う家屋の基礎を支える地盤の流失を想定しています。
 - ・堤防の毛根は、土質が異なる更地の状態で氾濫計算をしています。
- このため、例えば、土質による家屋の基礎の強度や、高層ビルに隣接する家屋の倒壊の恐れは低いと見られる場合、ただちに立退き避難が必要となる場合もありません。

避難の心得

1.非常持ち出し品を準備しておきましょう

避難所の備品には限りがありますので、自らが十分な準備をすると安心です。両手の空くりュックサックに非常持ち出し品を準備しておきましょう。

- 携帯ラジオ □非常食 □水 □懐中電灯・電池 □衣類
□生活用品 □救急薬品 □雨具 □ヘルメット □現金 □貴重品



2.避難先・避難ルート・避難方法を確認しましょう

浸水に対して安全な避難先とルートを平時から家族や地域で確認しておきましょう。また、自家用車での避難は、緊急自動車の通行を妨げるとともに、交通渋滞に巻き込まれる可能性もありますので、やめましょう。



3.早めの避難を心がけましょう

浸水してからの自宅外避難は危険です。降雨や河川水位などの情報をもとに、身の危険を感じたら避難勧告を待たずに自主的に避難を開始してください。



4.ご近所に声をかけましょう

単独での避難は、思わぬ事態に合った時に危険です。避難する前に隣近所に声をかけ、集団での避難を心がけましょう。



5.やむなく浸水の中を歩かなければいけない時の注意

■はん氾水は濁っていますので、水の中の障害物に注意しましょう。

■はん氾水は勢いが強いので、危険です。



6.避難所での注意

水害時に開設される避難所では、不特定多数の人々が一定期間滞在することになります。大声を出したり、騒いだり他人が深いと感じるような言動は控えましょう。互いの気遣いが大切です。

情報の収集

大雨注意報・大雨警報

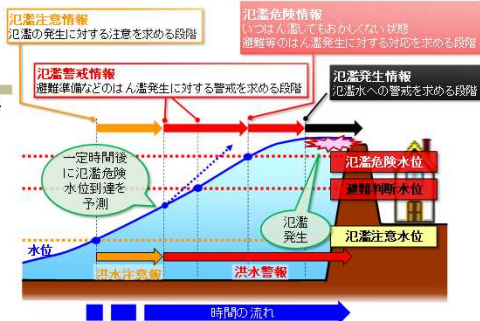
大雨による災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表されます。より重大な災害が起こるおそれのあるときには警報が発表されます。

洪水注意報・洪水警報

大雨、長雨、融雪などにより河川が増水し、災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表されます。より重大な災害が起こるおそれのあるときには警報が発表されます。

河川水位の情報

〇〇川では、洪水時には水位に応じて右図の情報が発表されます。



避難情報

河川水位や気象状況などから判断して市が発表します。この避難勧告等の情報を参考に、周囲の状況に応じて、早めの避難を心がけましょう。

避難準備情報

避難行動に時間を要する方が避難行動を開始しなければいけない状況

避難勧告

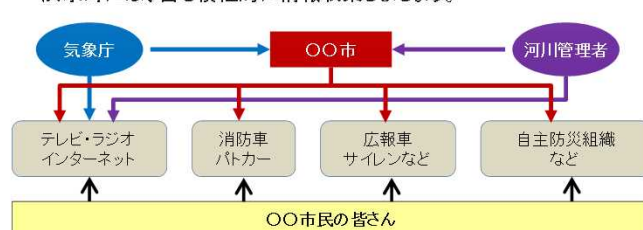
避難行動を開始しなければいけない状況

避難指示

人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況

情報の伝わり方

洪水時には、自ら積極的に情報収集しましょう。



災害用伝言ダイヤルのかけかた

●忘れてイナイ（171）？災害伝言171と覚えてください●

★伝言を登録する

171にダイヤル

録音の場合【1】

自宅の電話番号を市外局番からダイヤルし、伝言をいれてください。

★伝言を聞く

171にダイヤル

再生の場合【2】

被災地の電話番号を市外局番からダイヤルし、伝言聞いてください。

問い合わせ先……〇〇市〇〇課〇〇グループ
TEL:0000-00-0000